

ナレッジスター冬期講習 テキスト【国語】

担当講師：岡田 泰典

冬期講習 1 日目

始まりに

高専入試を見据える皆さんは、国語の対策に時間を割く余裕は今まであまりなかったでしょう。たしかに、国語に傾倒しすぎることは高専合格を目指す場合、好手とは言えません。やはり傾斜配点の科目を重視することが大切です。しかし、入試が迫ってきました。合格を目指す皆さんが、少しでも合格に近づくため、国語に目を向けることは決して無駄ではないはずです。今日から90分の授業が3本行われます。どの授業も高専国語で点数を取るために重要です。

一般に対策が難しいと言われる国語ですが、この冬期講習では「点数を取るためにすべきこと」を重点的にお伝えします。また後で見直しても思い返せるように問題だけのテキスト構成ではなく、今読んでいる文章のように、解説内容もできるだけ書き記しています。どうぞ、最後まで集中力を切らさずに聞いてください。

今日やること

- ・ 高専国語の構成を確認。
- ・ 漢字の学習範囲の確認＋勉強方法。
- ・ 文章の種類について
- ・ 選択肢問題の解き方
- ・ 設問を分類する
- ・ 「言い換え型」の解説
- ・ 「理由型」の解説

・高専国語の構成

大問構成	4題
大問1	漢字
大問2	論説文
大問3	論説文
大問4	小説文
試験時間	50分
配点	100点
設問形式	選択問題

まずは国語の入試問題の構成を把握しましょう。高専国語に記述問題はありません。ですから、記述対策をしなくても良いということです。現時点で国語が苦手だという生徒も、選択解答のコツを掴むことで成績の向上が見込めます。頑張ってくださいね。50分という時間に4題の構成になっていますから、時間配分には注意が必要です。具体的に各大問の特徴を記してみたいと思います。

・大問構成と特徴

◆大問1【知識（漢字）】時間配分2分

大問1は漢字の問題です。でも仮に漢字が今年大問1になくても焦ってはいけません。おそらく場所が移動しただけですし、なくなったらその分、別の知識が出題されるだけの話です。

漢字の出題範囲は今年度の受験生に限って、中3の学習範囲が除外されています。後で詳しく漢字について触れるので、今は構成について知ってもらえれば良いです。

大事なことは時間をかけないことです。漢字は考えるほど答えに近づくということはありません。分からなかったら次です。ただし分からなくても何か書きましようね。当たり前ですが、偶然当たることもあるし、これは絶対ないでしょ！という選択肢を省くだけでも点数につながるはず。費やせる時間は2分です。

◆大問2 【論説文（古典作品を解説するもの）】 時間配分15分

大問2は論説文なのですが、毎年「古典作品を解説する文章」が出題されています。そしてこれは国語が苦手な生徒にとってや取っ付きにくいものであることが多く、文章を読みにくく感じるかもしれません。設問自体の難易度は高くなくても、文章が頭に入っていないと解けませんから、国語が苦手だという生徒はここを一旦飛ばして、最後に解くことをお勧めします。理由は2つです。一つは「読みにくさ」、二つ目は「配点の低さ」です。大問2は配点が20〜24点とやや低めに設定されているため、ここから解いて嫌な印象で国語に臨むより、大問3、4から解いた方が点数は取りやすいでしょう。ただし、マークミスは気をつけてください。また、国語が苦手でないなら普通に解いてしまって構いません。頭に入れておいて欲しいことは、大問1、2を足しても配点は40点にも満たないということです。ちなみに古典知識はほぼ必要ありませんから、対策は不要です。

◆大問3 【論説文】 時間配分17分

大問3は論説文です。このジャンルは毎年様々で、配点が最も高く重要な大問になります。論説文が得意なら漢字を解いた後、大問2を飛ばして大問3を解いてしまっても構いません。続く大問4は小説文ですから、小説が得意なら大問4からでも良いでしょう。とにかく、自分が最も点数を取れるものから解くことが大切です。また例年、全体の文章に関する出題がされますから、文章の主題（筆者の主張）が何なのかを把握しながら文章を読むことが大切です。

◆大問4 【小説文】 時間配分16分

大問4は小説文です。ジャンルは観念的なものから親しみやすいものまで様々で、心情把握に関する問題が多く出題される傾向にあります。こちらも配点は大きく、対策が必要です。小説文が得意な生徒はこちらから解くと良いでしょう。文章は長文に見えますが、会話文があったり、平易な文で書かれていたり、読解にそこまでの時間はかからないはず。こちらも必ず全体についての内容や表現に関わる出題がされるため、心情の動きを把握しながら読み進めることが大切です。

高専国語の構成は以上のようになっています。これから3回の授業でこれらについて説明していくわけですが、全体の構造を認識してから細かなところに目を向けたほうが対策もしやすいし、何よりゴールを見据えて学習を始めないとモチベーションも上がってきません。「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」とも言えます。まずは敵をじっくりイメージしてみてください。

・漢字の学習範囲と勉強方法

先ほど後で詳しく触れると記した漢字について触れましょう。漢字の学習範囲は例年であれば「中学卒業までに習った漢字全て」でしたが、皆さんご存知通り、今年度の入試は範囲の除外があり、中3の学習範囲は出題されません。ですから、漢字の学習が今からでも十分間に合います。とは言っても漢字の勉強って何をすればいいの？という疑問がありますよね。皆さんが入試までの短い間にすべきことは「時間をかけ過ぎずに点数を取る」ことです。漢字は出題範囲が広いわりに配点が低く、本来入試が近くなってから始めるような単元ではありません。今まで積み重ねてきた子に対してのご褒美みたいなものです。ですが高専入試の場合、時間をかけずに学習する方法があります。それは教科書の後ろにある漢字の一覧を一つずつ読んで、わからないものだけ学習するという方法です。高専入試は漢字も選択問題であるため、漢字を書けるようにする必要はありません。熟語を見て、間違いに気がつければ良いだけです。ですから熟語や漢字をパッと見て意味の分からないものだけ読み方を確認しましょう。大事なことは机に向かって、鉛筆を握りしめ、よーしやるぞと意気込まないことです。寝転がりながらも良いし、お風呂に入りながらも良いし、どんな場所だって良いです。5分暇だとかそういう時に漢字の勉強をしてみると良いでしょう。

・文章の種類を分ける

文章には種類があります。中高生が好んで読むライトノベルは「物語」ですし、ハリポッターだって「物語」です。歴史上の人物の偉業が知りたいなら「伝記」を読むだろうし、モンシロチョウの生態が知りたければ「説明文」を読むでしょうし、孫正義の思想について知りたいなら「随筆」や「論説文」を読むわけです。そしてこれらを試験として解く皆さんが注意しなければならぬことは、文章の種類ごとに筆者の目的は異なるということです。その違いを考慮せず、ただ「国語の文章」という大きな概念の中で読解してしまうと、大切な情報をくみ取れなかったり、展開が理解できなかつたりするのです。高専入試で出題される文章の種類は2種類だけです。入試で問われる文章は何に注意して読むべきなのか。どんな構成をしているのかを学習してきましょう。

小説文の構成
(板書)

論説文の構成
(板書)

・ 選択問題の解き方

選択肢が与えられる問題と記述型の問題とではその解き方が異なることは言うまでもありません。ただし選択問題によく見られる裏技のような解法を教えるつもりはありません。そんなものに頼らずとも、正しく問題を解けば自ずと答えは一つに絞られます。高専国語で点数を取る上でとても大切なことは、「答えの目星をつけた上で、間違い選択肢を排除していくこと」⇨消去法です。間違っている選択肢を排除しきれば、残ったものは答えです。仮に2つまで絞れて、あとは分からなかったとしても、二分の一で当ります。それも実力です。だって考えてみれば、すべての選択肢を2つまで絞れる力があれば、あとは運に身を委ねても50点は取れるということですよ。気が楽になりませんか。あとで例題において実際に消去法を使って解いてみましょう。

選択問題の解き方は↓

・ 設問を分類する

国語を解く上で大事なことがあります。国語は「日本語」を出題する科目ではないということです。日本語は私たちの母国語ですから当然読めます。そうではなく、内容を理解できますか？と問われているのです。内容を理解しているならこの質問に答えられるよね？と言われているのです。だから国語における設問は質問と言い換えても良いわけです。ここに見落としがちで、大事な要素があります。それは「何を聞かれているか」です。つまり質問の内容を理解できないと、答えられるはずもないわけです。「ただ国語を解く」という感覚で設問と向き合っていないけません。聞かれていることを理解しようとする姿勢が大切です。今日の授業では高専で問われる設問を分類し、それぞれの解き方を解説していきます。この問題では何を問われているのか。それを意識することで正答率は飛躍的に向上するはずです。

◆過去4年間の設問分類

平成30年度入試					平成29年度入試				
大問	配点	設問	配点	設問形式	大問	配点	設問	配点	設問形式
大問1	12	(1)	2	知識(漢字)	大問1	14	(1)	2	知識(漢字)
		(2)	2	知識(漢字)			(2)	2	知識(漢字)
		(3)	2	知識(漢字)			(3)	2	知識(漢字)
		(4)	2	知識(漢字)			(4)	2	知識(漢字)
		(5)	2	知識(漢字)			(5)	2	知識(漢字)
		(6)	2	知識(漢字)			(6)	2	知識(漢字)
大問2	21	問1	4	言い換え型			大問2	20	(7)
		問2	2	知識(修辭法)	問1	4			言い換え型
		問3	4	文脈型	問2	4			言い換え型
		問4	2	知識(文法)	問3	2			知識(修辭法)
		問5	4	言い換え型	問4	4			文脈型
		問6	5	要旨型	問5	2			知識(文法)
大問3	38	問1	9	文脈型	大問3	33			問6
		問2	4	言い換え型			問1	3	文脈型
		問3	4	理由型			問2	4	言い換え型
		問4	4	言い換え型			問3	4	言い換え型
		問5	4	理由型			問4	4	言い換え型
		問6	4	言い換え型			問5	4	理由型
		問7	4	文脈型			問6	4	理由型
		問8	5	要旨型			問7	5	言い換え型
大問4	29	問1	4	知識(意味)	大問4	33	問8	5	要旨型・表現型
		問2	4	言い換え型			問1	4	知識(意味)
		問3	4	心情把握型			問2	4	心情把握型
		問4	4	理由型			問3	4	心情把握型
		問5	4	心情把握型			問4	4	言い換え型
		問6	4	言い換え型			問5	4	表現型
		問7	5	要旨型・表現型			問6	4	要旨型
								問7	4
						問8	5	表現型	

令和2年度入試				
大問	配点	設問	配点	設問形式
大問1	12	(1)	2	知識(漢字)
		(2)	2	知識(漢字)
		(3)	2	知識(漢字)
		(4)	2	知識(漢字)
		(5)	2	知識(漢字)
		(6)	2	知識(漢字)
大問2	24	問1	3	知識(文学)
		問2	4	知識(古文)
		問3	3	知識(文学)
		問4	4	言い換え型
		問5	4	理由型
		問6	3	言い換え型
			3	言い換え型
		問7	3	知識(修辞法)
大問3	32	問1	2	知識(意味)
		問2	3	知識(意味)
		問3	2	文脈型
			2	文脈型
			2	文脈型
		問4	4	理由型
		問5	4	言い換え型
		問6	4	言い換え型
		問7	4	言い換え型
問8	4	要旨型		
大問4	30	問1	3	知識(意味)
			3	知識(意味)
		問2	4	心情把握型
		問3	4	理由型
		問4	4	心情把握型
		問5	4	理由型
		問6	4	心情把握型
		問7	4	表現型

平成31年度入試				
大問	配点	設問	配点	設問形式
大問1	14	(1)	2	知識(漢字)
		(2)	2	知識(漢字)
		(3)	2	知識(漢字)
		(4)	2	知識(漢字)
		(5)	2	知識(漢字)
		(6)	2	知識(漢字)
		(7)	2	知識(漢字)
大問2	24	問1	4	理由型
		問2	4	言い換え型
		問3	2	知識(修辞法)
		問4	4	言い換え型
		問5	2	知識(文法)
		問6	4	言い換え型
		問7	4	理由型
		大問3	32	問1
問2	9			文脈型
問3	4			理由型
問4	4			言い換え型
問5	4			言い換え型
問6	4			言い換え型
問7	4			理由型
大問4	30			問1
		問2	4	心情把握型
		問3	4	理由型
		問4	4	理由型
		問5	4	心情把握型
		問6	4	言い換え型
		問7	4	表現型

設問の種類は大きく分けて、6つです。細く分類すればさらに増えますが、高専国語対策に絞った分類です。

① 知識

② 文脈型

③ 言い換え型

④ 理由型

⑤ 心情把握型

⑥ 全体型

↓
今回の授業で扱う範囲

ではそれぞれ例題を交えながら解説していきましょう。例題は過去問から抜粋しています。一度解いたことがあっても構いません。どのように解くかを知ることが大切ですから。

◆ 言い換え型 【どうということ・説明しなさい】

「言い換え」とは「」のことです。

↓あまりピンとこないと思います。では具体的にいきましょう。

例題1 (30秒)

赤くて、甘くて、丸くて青森名産の果物が好きだ。とあるが、どうということか十五文字以内で答えなさい。

どうでしょうか？ 30秒くらいで考えて書いてください。そんなに難しくないとはいけません。

答え↓

答えられましたか？今行った作業はこういうことです。

りんご



赤くて、甘くて、丸くて青森名産の果物が好きだ。

↓りんごが好きということ。

これはつまり、「赤くて、甘くて、丸くて青森名産の果物」って曖昧なものを「りんご」に言い換えているということです。この作業を「言い換え」とか「説明」というわけです。

説明して？って言われたら、分かりやすくして？ってことと同じですよ。では実際の問題を見てみましょう。

例題2 (5分)

西行(二二一八―九〇年)は出家し、三十年ほどにわたって高野山に庵を結んだが、仏教の教理を究めることをその生涯の目的とはしなかった。むしろ、何よりもつねに歌を詠む人であったと言ふことができる。

平安末期から鎌倉前期に出たすぐれた仏教者の一人に明恵(一一七三―一二三二年)がいる。明恵は華嚴宗の僧であったが、真言密教にも深い理解を有しており、長く高野山で暮らした西行の宗教観とも通じるところがあった。同時に和歌にもすぐれ、『明恵上人和歌集』を残している。あとでも触れるが、西行は晩年に京都・梅尾の明恵のもとを訪れ、和歌をめぐって議論を交わしている。

明恵は歌人でもあったが、何より仏道修行と教学研究に努めた人であった。それは弟子の高信がまとめた『梅尾明恵上人遺訓』のなかの次の言葉からも知られる。「只心を一にし、志を全うして、徒に過す時節なく、仏道修行を励むより外には、法師の役はなき事也。……凡仏道修行には、何の具足も要らぬ也。松風に睡を覚し、朗月を友として、究め来り究め去るより外の事なし。」いたずらに時を過ごさず、ただ心を一つにして仏道修行に励み、仏陀の教えを究めつくすことが肝要であるというのである。

問2 本文中に、明恵は歌人でもあったが、何より仏道修行と教学研究に努めた人であった。とあるが、明恵の姿勢の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア たとえ歌人であっても、法師であるからには時間を無駄にせず、歌と同様仏道にも心を一つにして励むのがよいという姿勢。
- イ たとえ歌人であっても、法師であるからには歌よりも仏道修行に努め、仏陀の教えを究めるのが最も重要であるという姿勢。
- ウ たとえ歌人であっても、法師であるからには歌道と教学研究との両立を目指し、努力を重ねなければならぬという姿勢。
- エ たとえ歌人であっても、法師であるからには歌の出来ばえはともかく、仏陀の教えにそって歌を詠むべきであるという姿勢。

答え↓

さあ、どうだっただろうか？大切なポイントは2つです。「説明」を求められていることと、傍線部の言い換えを正しく行うこと。

板書

練習時のポイント

↓

明恵は歌人でもあったが、何より仏道修行と教学研究に努めた人であった。

ア、たとえ歌人であっても、法師であるからには時間を無駄にせず、歌と同様仏道にも心を一つにして励むのが良いという姿勢。

イ、たとえ歌人であっても、法師であるからには歌よりも仏道修行に努め、仏陀の教えを究めるのが最も重要であるという姿勢。

ウ、たとえ歌人であっても、法師であるからには歌道と教学研究との両立を目指し、努力を重ねなければならないという姿勢。

エ、たとえ歌人であっても、法師であるからには歌の出来ばえはともかく、仏陀の教えにそって歌を詠むべきであるという姿勢。

言い換えがしっかりと行われていれば正解は容易いはず。言い換え問題を見かけたら、傍線部の意味を正しく汲みとるようにしましょう。次の問題も言い換え型の問題です。がんばってください。

例題3 (5分)

去来（注）はすぐれた俳句作者であり、その作品だけでも蕉門（注）の一翼を担う役割を立派に果たしているが、それに加えて『去来抄』という書物を後世に残して、芭蕉の俳句理論や指導法を私たちに伝えてくれた功績が大きい。例えば蕉門における「さび」という概念は難しいものだが、次の句がその例にあたるものが『去来抄』によつて分かる。

花守はなもりや白き頭かしらをつき合せ 去来

この句について芭蕉は「さび色よく現われ、悦よろこび候さうろう。」と言つたという。「さび」とは単純に閑寂な句を言うのではなく、賑やかなものにも静かなものにもその内部から滲み出てくるものなのだ。この句は、花の春という絢爛けんらんたるものの中に白髪の老人の姿を出すことによつて、句の世界そのものは華やかでありながら、内側からしみじみとしたものが滲み出ている。それが「さび」の現われた句ということなのである。

問1 本文中に、蕉門における「さび」とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 「さび」とは、句の内部から滲み出るしみじみとしたものだが、句自体は華やかでなければならぬということ。
- イ 「さび」とは、賑やかな中に静けさも感じられる句の内部から、おのずと滲み出てくるものであるということ。
- ウ 「さび」とは、寂しげでかつ静かな句の内部から、しみじみと滲み出てくるものでなければならぬということ。
- エ 「さび」とは、賑やかな句であれ静かな句であれ、句の内部から滲み出るしみじみとしたものであるということ。

板書

蕉門における「さび」

↓このままじゃ言い換えできない！

ア、「さび」とは、句の内部から滲み出るしみじみとしたものだが、句自体は華やかでなければならぬということ。

イ、「さび」とは、賑やかな中に静けさも感じられる句の内部から、おのずと滲み出てくるものであるということ。

ウ、「さび」とは、寂しげでかつ静かな句の内部から、しみじみと滲み出てくるものでなければならぬということ。

エ、「さび」とは、賑やかな句であれ静かな句であれ、句の内部から滲み出るしみじみとしたものであるということ。

これから問題を解くときも言い換え問題を意識して解くようにしましょう！